

# UBS世界公共インフラ債券投信(通貨選択型)

## 最新の欧米の金融政策及びトルコリラの動向、見通しについて



- 欧米中銀は、成長予想を上昇修正するも、物価・金利には慎重な見通し
- 社債市場では、欧米経済の緩やかな拡大、利回り重視の投資家からの資金流入等が引き続き追い風となる見通し
- トルコの対外関係や高インフレに改善の兆しが見えており、投資家はトルコ経済の将来性や政治的な繋がりの強化を再評価していく可能性

### 足元の欧米の金融政策の動きについて:

#### 【12月のFOMC】～ 2017年は市場の予想通りの3回の利上げ、来年も3回を見込む

- 12月12-13日のFOMCで、大方の予想どおり、利上げが決定されました。FF金利は**1.25-1.50%**となり、2015年12月の利上げ開始以降の利上げ幅は1.25%となりました。
- 米国経済と金利見通しは、GDP成長率予想は前9月時点から引き上げられた一方で、インフレ率及びFF金利予測の上方修正は限定的で、ハト派的と市場に判断される内容となりました。
- 「トランプ減税」が実現する可能性が高まる中、注目されたドットチャートの中央値(FRB理事・地区連銀総裁が考える適切な利上げペースの集計結果)では**18年3回、19年2.25回、20年1.5回**と利上げペースが鈍化する姿が再確認されました。また、長期の成長率予測は1.8%増で前回から変わらずとなりました。FRBは税制改革が実施されても、長期的に米成長率が大幅上昇するとの確信はもっていない模様です。

→ 「来年4回の利上げ」を一部が予想していたこともあり、12月のFOMCでFedの緩やかな利上げ・再投資停止路線が確認された結果、市場には安心感が広がっていくと見られています。

#### ■米FRB理事・地区連銀総裁による米国経済金利見通し(中央値、%、前回9月→今回12月)

	2017年	2018年	2019年	2020年	長期
実質GDP成長率	2.4→ <b>2.5</b>	2.1→ <b>2.5</b>	2.0→ <b>2.1</b>	1.8→ <b>2.0</b>	1.8→ <b>1.8</b>
失業率	4.3→ <b>4.1</b>	4.1→ <b>3.9</b>	4.1→ <b>3.9</b>	4.2→ <b>4.0</b>	4.6→ <b>4.6</b>
インフレ率(総合)	1.6→ <b>1.7</b>	1.9→ <b>1.9</b>	2.0→ <b>2.0</b>	2.0→ <b>2.0</b>	2.0→ <b>2.0</b>
インフレ率(コア)	1.5→ <b>1.5</b>	1.9→ <b>1.9</b>	2.0→ <b>2.0</b>	2.0→ <b>2.0</b>	N/A
FF金利	1.4→ <b>1.4</b>	2.1→ <b>2.1</b>	2.7→ <b>2.7</b>	2.9→ <b>3.1</b>	2.8→ <b>2.8</b>

#### ■ECBによる四半期スタッフ経済・物価見通し(%、前回9月→今回12月)

	2017年	2018年	2019年	2020年
実質GDP成長率	2.2→ <b>2.4</b>	1.8→ <b>2.3</b>	1.7→ <b>1.9</b>	**→ <b>1.7</b>
インフレ率HICP	1.5→ <b>1.5</b>	1.2→ <b>1.4</b>	1.5→ <b>1.5</b>	**→ <b>1.7</b>

出所:FRB、ECBの情報を基に当社作成。

注:米インフレ率は米商務省が発表するPCE

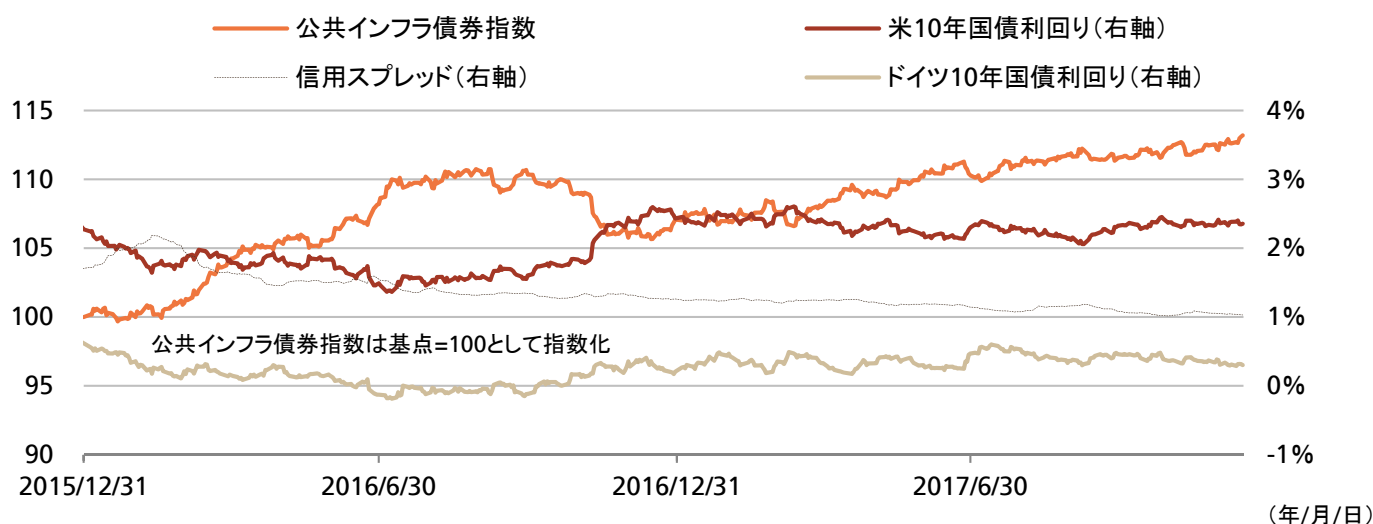
上記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。

## 【欧州・その他】

- 12月14日のECB政策理事会では、市場の予想通り政策金利とフォワードガイダンスが据え置かれました。声明文には、資産購入プログラムを18年9月末まで延長した上で、必要な場合は規模の拡大や期間の延長もあり得るとの表現が維持されました。また、良好な流動性を保ち、適切な金融政策を行うためにプログラム終了後も長い間、再投資を続ける方針が改めて示されました。
- 同時に公表された四半期スタフ経済・物価見通し(前ページの表を参照)は、成長率見通しは全体的に引き上げられ、物価見通しは18年がやや引き上げられた一方でそれ以外は据え置かれました。新たに2020年見通しが公表され、インフレ率の見通しは1.7%とターゲットの2%を下回る見通しとなりました。

→ECBではハト派勢力が優勢と見られ、インフレが伸び悩む中で慎重な対応が見込まれます。2018年9月までECBの社債買い入れプログラムは継続され、再延長の余地も残されています。

## ■公共インフラ債券価格(現地通貨ベース)・信用スプレッド、米国・ドイツ10年国債利回り推移 (2015年12月31日～2017年12月15日)



公共インフラ債券指数:ブルームバーグ・パークレイズ・グローバル総合社債インデックスから、公益・通信・生活必需品・エネルギー・運輸各セクターを、2017年11月末の各セクターの構成比率を基に当社が合成。  
公共インフラ債券指数(左軸)は基点=100として指数化。

出所:トムソン・ロイターのデータ、各種情報を基に当社作成。

上記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。

## 今後の社債市場の見通し、運用方針:

- 今後の社債市場では、スプレッドについては現在の水準から大きく縮小することは考えにくいものの、緩やかな景気拡大と低インフレが継続する中、今後も利回りを求める投資家からの資金流入が期待されています。2017年においては、特に投資適格社債への安定的な資金流入が確認されています。
- 2018年においては、欧州中央銀行による社債購入の継続に加え、米税制改革による社債発行の減少などが需給面の追い風になると見えています。
- 今後の社債投資においては、金利の上昇がマイナスに影響する可能性はありますが、利回り水準の上昇により中長期的にインカム収益の向上が見込めます。
- また、ここ数年の社債市場の規模拡大を投資機会と捉え、ボトムアップを重視し、個別銘柄のバリュエーション等を考慮した戦術的な取引を増やすなど機動的な運用を心掛けています。

## 2017年のトルコリラ相場について

- 2017年のトルコリラ相場は変動の激しい一年となりました。前半は、政治の安定化、インフレ抑制の動きが好感され、トルコリラを取り巻く環境は改善し、一時は大幅上昇となりました。しかし後半は、対米、対EU関係の悪化や、中銀のインフレへの対応の遅れなど投資環境が急速に悪化し、10月以降売り圧力を受けてきたトルコリラは対円で11月28日に28.01円の安値を付けましたが、その後は中央銀行の引き締め姿勢を好感し反発の兆しが強まっています。

### 【トルコ政治、対米、対EU関係悪化等の影響】

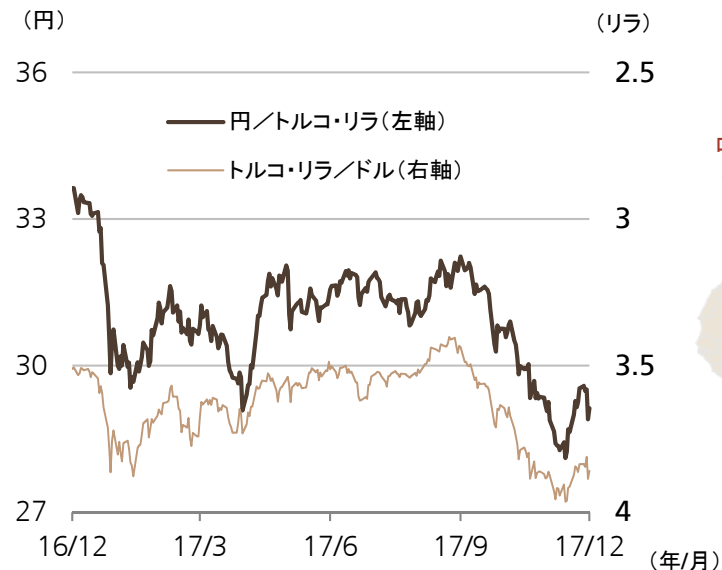
- 2016年のクーデター以降に拡大したトルコの政治混乱は、2017年に入り、エルドアン大統領が実施した4月の国民投票を経て、幾分か落ち着きを取り戻しました。憲法改正により大統領権限を強化したことを受け、長期政権による政治の安定に期待が高まりました。しかし、年後半は同大統領の強権的な動きが金融市場を揺さぶる展開となりました。成長重視・低金利志向のエルドアン大統領は、中銀への圧力を強めたり、対米、対EUなど対外関係においては、悪化を招く外交姿勢を取ったことなどから、通貨リラは急落しました。

### 【足元の対外関係に改善の動き、長期的な視点からみたトルコ】

- 足元では、悪化した政治・外交関係に改善の兆しが見えています。11月に入ると、在トルコ米大使館が拘束されていた米総領事館職員の安全が保証されたとしてビザ発給を一部再開しました。これを受けて在米トルコ大使館もビザ発給再開の方針が示されました。また、対EUでは、11月末にメルケル独首相とエルドアン大統領が数ヶ月振りに電話会談を行い、EUからトルコへのシリア難民向け資金援助開始に向けて動くことをメルケル首相が約束したと報じられました。
- ヨーロッパとアジアをつなぐ位置にあるトルコの外交は、近年、アメリカ強の世界から多極化が進む中、国際社会の力関係を映すものになっています。今後もエルドアン政権は、欧米との関係は保ちつつ、ロシアや中国へ外交の軸をシフトしていく可能性もあります。トルコの将来性や経済的なつながりの強さを踏まえると、EUをはじめ米、ロシア、中国といった大国が、トルコをないがしろにできない状況になりつつあります。
- 2030年にかけてトルコの人口は10%程度増加しドイツを抜く見込みで(国連推計)、投資対象としての重要性はさらに高まると見られています。中国も一帯一路政策にトルコを組み込んでおり、ロシアも地中海、中東への出口にあるトルコとの関係を深めていくと見られます。

### ■トルコリラ相場の推移

(2016年12月15日～2017年12月15日)



### ■中国の「一帯一路」構想

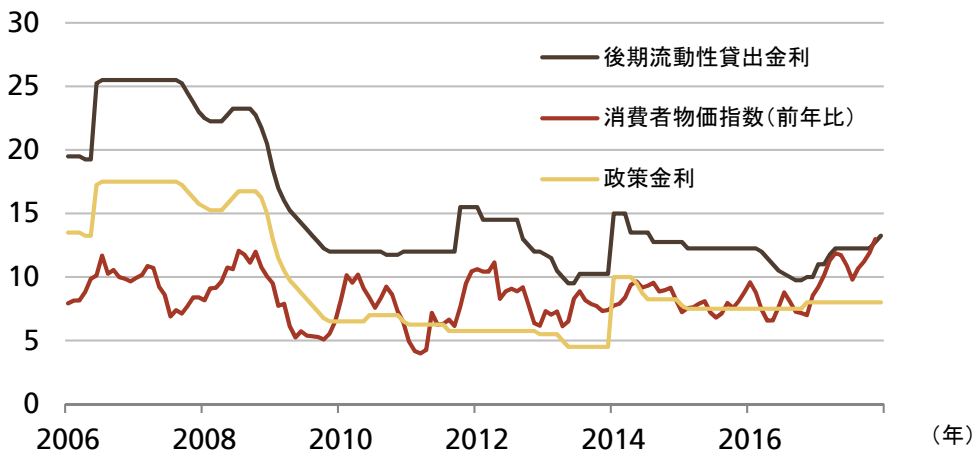


出所: トムソン・ロイターのデータ、各種情報を基に当社作成。  
上記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。

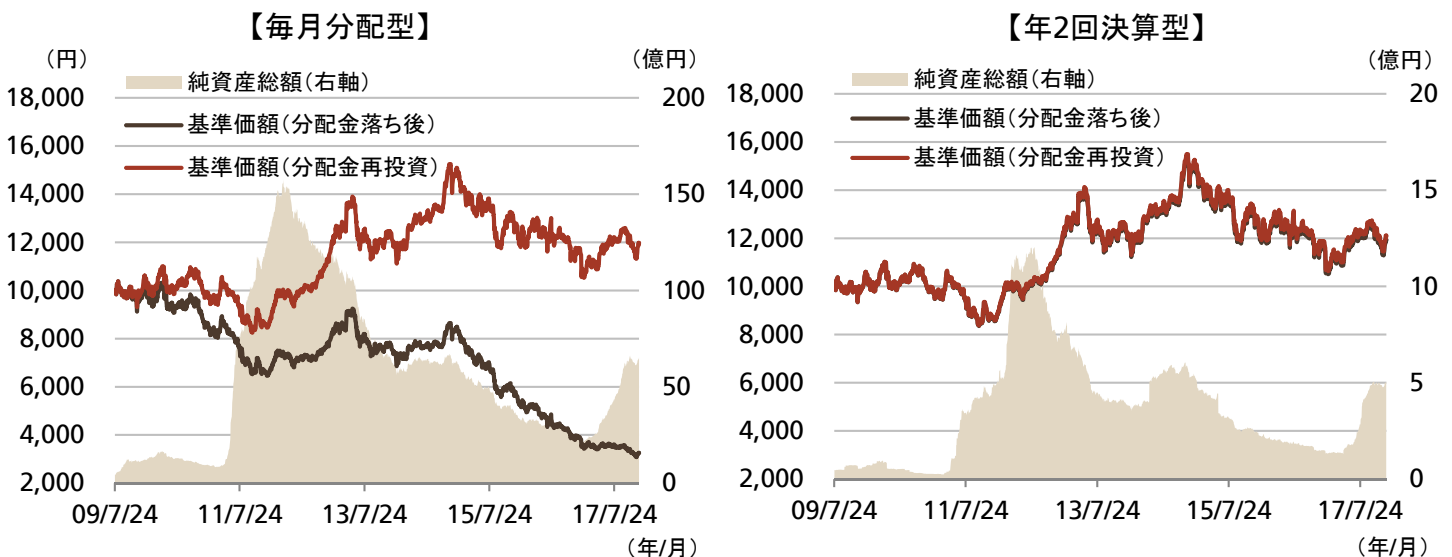
## 【トルコ経済・金融、通貨リラの見通し】

- 政治外交問題と共に高いインフレ率がトルコの課題となっています。トルコの消費者物価指数(10月・前年比)は+11.9%と、従来目標としてきた5%±2%の上限を大きく上回っています。この背景の一つには、成長重視・低金利志向のエルドアン大統領からの圧力を受け、中銀は必要な利上げを忖度により躊躇しているとの観測が高まっています。
- 足元、エルドアン大統領が利上げ容認姿勢を示したことも追い風となり、トルコ中銀は12月14日の会合で政策金利の一つである後期流動性貸出金利を50bp引き上げました(12.25%から12.75%へ)。
- 市場の予想に比べ今回の利上げ幅が小幅となったことから、当面インフレ圧力は残ると見られます。一方、インフレ上昇等にもかかわらずトルコ経済は堅調に推移しており、11日発表の3QGDPは前年同期比+11.1%と非常に高い伸びを記録しました。
- 対欧米外交関係、高インフレなどトルコ独自の悪材料が弱まる兆しが見えています。世界的な好況と株高が続く環境下、投資家は再びトルコ経済の将来性に焦点を向ける可能性があります。

### ■政策金利、後期流動性貸出金利、消費者物価指数(前年比)推移 (2006年1月～2017年12月)



### ■トルコリラコース基準価額(分配金再投資)推移 (2009年7月24日(設定日)～2017年12月15日)



※基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後、ファンドの分配金(1万口当たり、税引前)でファンドを購入(再投資)したと仮定した場合の価額です。

出所:トムソン・ロイターのデータ、各種情報を基に当社作成。  
上記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。

## ファンドの特色

### ■外国投資信託への投資を通じて、実質的に日本を含む世界の「公共インフラ」企業の発行する債券を投資対象とします。

- ・主として信用力の高い、世界の公共インフラ企業が発行する債券に実質的に投資します。
- ・外国投資信託への投資を通じて実質的に組入れを行う債券は、原則として、購入時において主要格付機関よりBBB-/Baa3以上の長期格付が付与された銘柄とします。ただし、BB格相当以下の銘柄の購入は行いませんが、購入後の格下げ等を理由に一部、BB格相当以下の銘柄を保有する場合があります。なお、一部格付をもたない銘柄についても、運用者がBBB格相当以上と判断した銘柄について投資する場合があります。
- ・当ファンド(「マネープール」を除く)が投資対象とする外国投資信託の運用は、UBSアセット・マネジメント(UK)リミテッドが行います。

### ■8つの通貨コースおよびマネープールで構成されています。

- ・通貨コースには、「円コース」、「豪ドルコース」、「ブラジルリアルコース」、「南アフリカランドコース」、「トルコリラコース」、「米ドルコース」、「ユーロコース」、「メキシコペソコース」の8つのコースがあります。
- ・各通貨コースは、実質的な投資対象である世界の公共インフラ債券(以下「投資対象資産」という場合があります。)について、円コースでは実質的に円建てとなるように為替取引(円コースでの為替取引を以下「為替ヘッジ」という場合があります。)を行い、対円での為替変動リスクの低減を図りますが、円コース以外の通貨コースでは実質的に各通貨コースの通貨建てとなるように為替取引を行いますので、それぞれの通貨と円との間の為替変動の影響を受けます。※為替取引とは、投資対象資産に係る通貨を売り予約し、各通貨コースの通貨を買い予約する取引をいいます。
- ・各通貨コースには、「毎月分配型」と「年2回決算型」があります。(「マネープール」は「年2回決算型」のみです。)

### ■「毎月分配型」と、「年2回決算型」があります。

- ・「毎月分配型」は毎月25日(休業日の場合は翌営業日)、「年2回決算型」は毎年4月25日および10月25日(休業日の場合は翌営業日)の決算時に収益分配を行います。(いずれも、委託会社の判断により分配を行わない場合があります。)

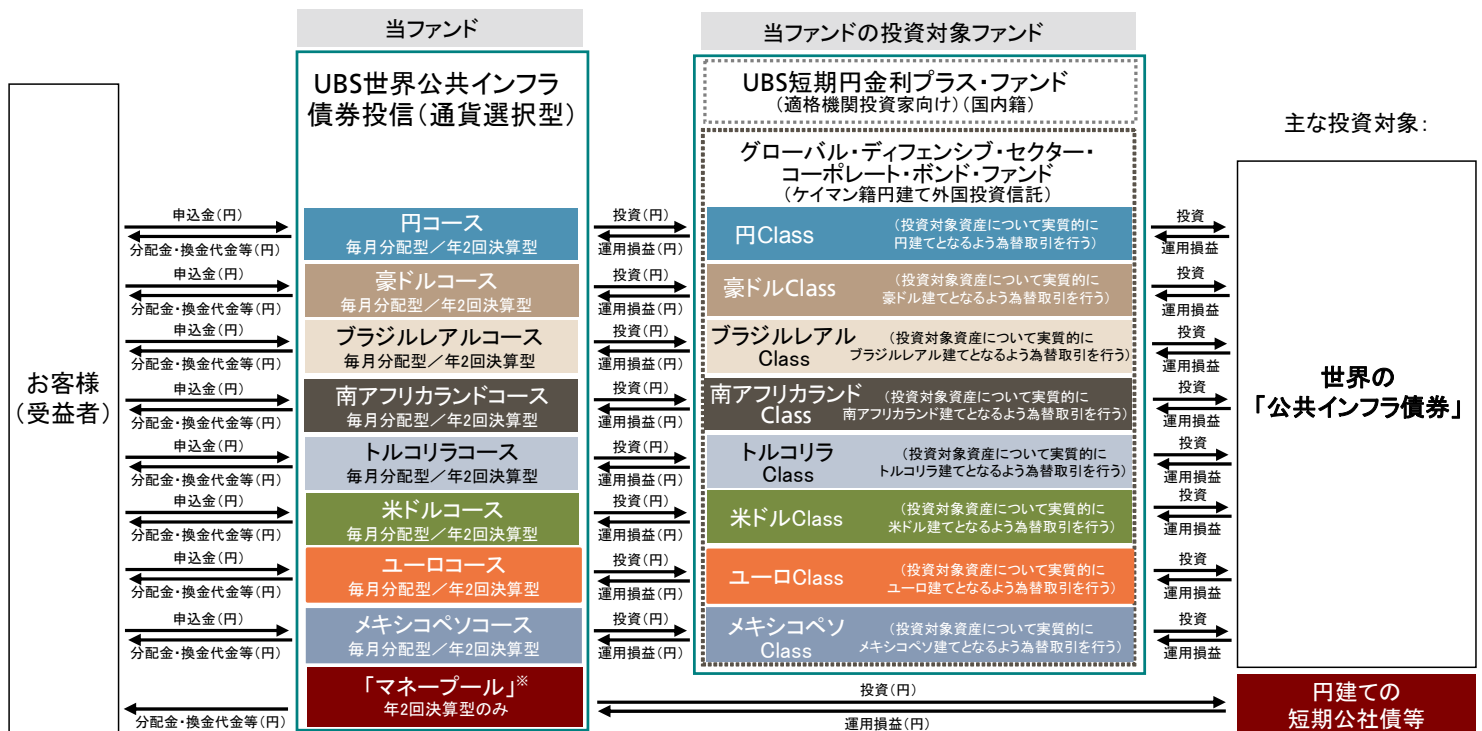
## ファンドの仕組み

### ■当ファンド(「マネープール」を除く)はファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。

### ■「毎月分配型」の各ファンド間および「年2回決算型」の各ファンド間でスイッチングができます\*。

\*「毎月分配型」と「年2回決算型」の間でのスイッチングはできません。

なお、スイッチングの際には費用・税金がかかりますのでご注意ください。(ただしスイッチングによる「マネープール」のお買付は無手数料です。)

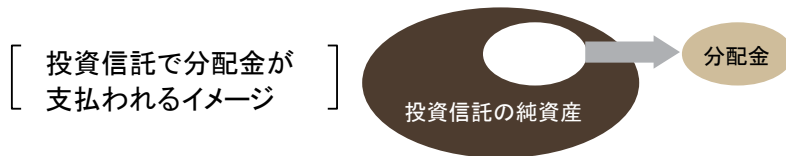


※「マネープール」(UBS世界公共インフラ債券投信(通貨選択型)マネープール(年2回決算型))のお買付は、「年2回決算型」の各ファンドからのスイッチングのみとします。

資金動向、信託財産の規模、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

## 収益分配金に関する留意事項

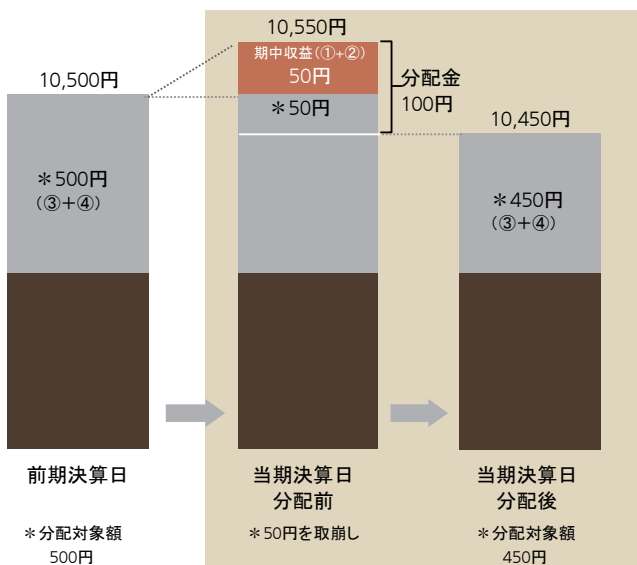
◎分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



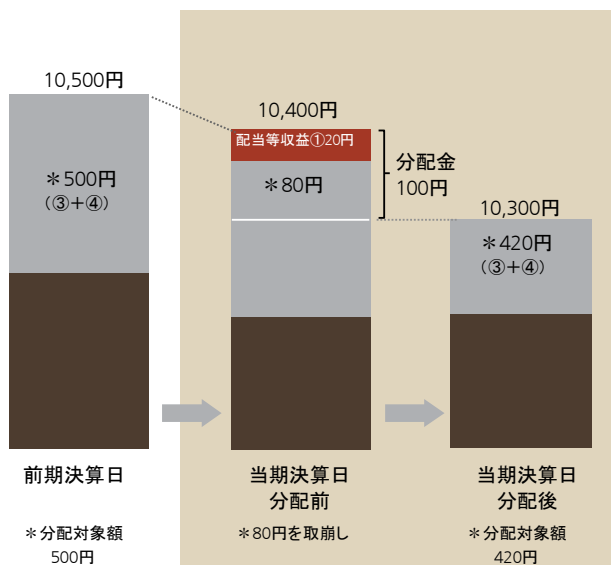
◎分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

### 【計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合】

#### 【前期決算日から基準価額が上昇した場合】



#### 【前期決算日から基準価額が下落した場合】

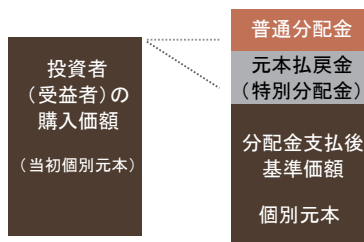


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

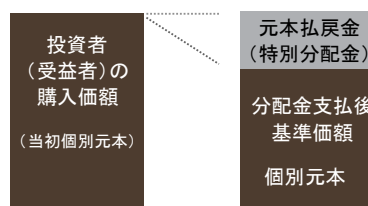
◎投資者(受益者)のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

#### 【分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合】



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

#### 【分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合】



普通分配金：個別元本(投資者(受益者)のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者(受益者)の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の(特別分配金)額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。

## 投資リスク

当ファンドの基準価額は、組入れられる有価証券等の値動きによる影響(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を受けますが、これら運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。

当ファンドにかかる主なリスクは次の通りです。ただし、すべてのリスクについて記載されているわけではありません。

### 各ファンド共通(「マネープール」を除く)

#### ■ 公社債に関する価格変動リスク

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて公社債への投資を行います。公社債の価格は、主に金利の変動(金利変動リスク)および発行体の信用力の変化(信用リスク)の影響を受けて変動します。公社債の価格が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。公社債の価格の変動幅は、公社債の償還までの残存期間、発行体の信用状況などに左右されます。

#### ■ 為替変動リスク

「豪ドルコース(毎月分配型)／(年2回決算型)」、「ブラジルリアルコース(毎月分配型)／(年2回決算型)」、「南アフリカランドコース(毎月分配型)／(年2回決算型)」、「トルコリラコース(毎月分配型)／(年2回決算型)」、「米ドルコース(毎月分配型)／(年2回決算型)」、「ユーロコース(毎月分配型)／(年2回決算型)」、「メキシコペソコース(毎月分配型)／(年2回決算型)」

投資対象である外国投資信託の投資対象資産について、原則として実質的に各通貨コースの通貨建てとなるように各通貨コースの通貨(\*)での為替取引を行いますので、円貨ベースでの資産価値は当該通貨コースの通貨(\*)の為替変動の影響を大きく受けます。したがって、為替の変動に伴って、基準価額が大きく変動する可能性があります。また、完全に投資対象資産に係る通貨の影響を排除することはできませんので、投資対象資産に係る通貨の為替変動の影響を受ける場合があります。当該通貨コースの通貨(\*)の金利が投資対象資産に係る通貨の金利より低い場合は、その金利差相当分のコストがかかり、基準価額の変動要因となることがあります。

(注)文中の(\*)については、下記の表よりそれぞれ当てはめてご覧ください。

豪ドルコース	ブラジルリアルコース	南アフリカランドコース	トルコリラコース	米ドルコース	ユーロコース	メキシコペソコース
* 豪ドル	ブラジルリアル	南アフリカランド	トルコリラ	米ドル	ユーロ	メキシコペソ

### 「円コース(毎月分配型)／(年2回決算型)」

投資対象である外国投資信託の投資対象資産について、原則として実質的に円建てとなるように対円での為替ヘッジを行い、対円での為替変動リスクの低減を図ります。ただし、完全に為替変動リスクを排除することはできませんので、基準価額は円と投資対象資産に係る通貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、円金利が投資対象資産に係る通貨の金利より低い場合、その金利差相当分のコストがかかり、基準価額の変動要因となることがあります。

#### ■ 為替取引プレミアム(金利差相当分の収益)に係るリスクおよび留意点

円コースを除く各通貨コースでは、投資対象資産に係る通貨と各通貨コースの通貨(為替取引対象通貨)との間の短期金利の差(為替取引プレミアム)を収益機会とする一方、選択された通貨コースの通貨と円との間の為替変動の影響を大きく受けます。したがって、選択された通貨コースの通貨に対して円が上昇(円高)した場合には、基準価額は下落し、損失を被る可能性があります。

#### ■ カントリー・リスク

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、運用方針に沿った運用が困難となったりする場合があります。

### 「マネープール」

#### ■ 金利変動リスク

公社債の価格は金利変動によって変動します。一般的に公社債の市場価格は、金利が低下した場合には上昇する傾向となり、逆に金利が上昇した場合には下落する傾向があります。

#### ■ 信用リスク

ファンド資産を公社債およびコール・ローン等の短期金融商品で運用する場合、取引相手方による債務不履行により損失が発生する可能性があります。

### 「その他の留意点」

・ ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

#### ■ 分配金に関する留意点

分配金は計算期間中に発生した信託報酬等控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。)を超過して支払われる場合がありますので、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、分配金はその支払いの一部ないし全てが実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。また、ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。なお、分配金の支払いは純資産総額から行われますので、分配金支払いにより純資産総額は減少することになり、基準価額が下落する要因となります。

■ 外国投資信託の投資対象資産について為替取引を行う際、一部の新興国においては通貨の受渡に制約があるため、NDF※(ノン・デリバラブル・フォワード)を用いる場合があります。

NDFの取引価格の値動きと実際の為替市場の値動きは、需給動向や規制等の影響により、大きく乖離する場合があります。その結果、投資成果は、実際の為替市場や金利市場の動向から理論上期待される水準と大きく乖離する場合があります。また、市場規模の縮小や当局の規制等によりNDFが利用できなくなった場合、ファンドの投資方針に沿った運用ができなくなる場合があります。

※ NDFとは、新興国の通貨を売買する際に利用される直物為替先渡取引の一種で、主に金融機関と相対で取引されます。NDFにおいては当該国通貨の受渡が発生せず、主に米ドルなど主要通貨で差金決済されます。

「リスク管理体制」等については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## ファンドの費用 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください

当ファンドの購入時や保有期間中には以下の費用がかかります。

### ■ 投資者が直接的に負担する費用

時期	項目	費用
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額に、 <b>3.24%(税抜3.0%)以内</b> で販売会社が定める率を乗じて得た額を、販売会社が定める方法により支払うものとします。 ※購入時手数料は、商品および関連する投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務手続きの対価です。 ※スイッチングによる場合の購入時手数料は、購入申込受付日の翌々営業日の基準価額に、 <b>1.62%(税抜1.5%)以内</b> で販売会社が定める率を乗じて得た額とします。(「マネープール」へのスイッチングには購入時手数料はかかりません。) ※詳しくは販売会社もしくは購入時手数料を記載した書面にてご確認ください。
換金時	信託財産留保額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額に <b>0.3%</b> の率を乗じて得た額をご負担いただきます。 ※「マネープール」には信託財産留保額はありませぬ。

### ■ 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

時期	項目	費用									
保有時	運用管理費用(信託報酬)	<p>■各ファンド(「マネープール」を除く)</p> <p>日々の純資産総額に対して<b>年率0.9504%(税抜年率0.88%)</b>を乗じて得た額とします。 (運用管理費用(信託報酬)＝運用期間中の基準価額×信託報酬率) 配分は以下の通りです。(税抜、年率表示)</p> <table border="1"> <tr> <td>委託会社</td> <td>0.34%</td> <td>委託した資金の運用の対価</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>0.50%</td> <td>購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>0.04%</td> <td>運用財産の管理、運用指図実行等の対価</td> </tr> </table> <p>※運用管理費用(信託報酬)は、毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。</p>	委託会社	0.34%	委託した資金の運用の対価	販売会社	0.50%	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価	受託会社	0.04%	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
委託会社	0.34%	委託した資金の運用の対価									
販売会社	0.50%	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価									
受託会社	0.04%	運用財産の管理、運用指図実行等の対価									
	投資対象とする投資信託証券	ファンドの純資産総額に対して年率0.70%程度(委託会社が試算した概算値)									
	実質的な負担	ファンドの純資産総額に対して <b>年率1.6504%程度</b>									
	■マネープール	<p>日々の純資産総額に<b>年0.5940%(税抜年0.55%)</b>を上限とする率を乗じて得た額とします。 (運用管理費用(信託報酬)＝運用期間中の基準価額×信託報酬率) 配分は以下の通りです。(税抜、年率表示)</p> <table border="1"> <tr> <td>委託会社</td> <td>0.25%</td> <td>委託した資金の運用の対価</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>0.25%</td> <td>購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>0.05%</td> <td>運用財産の管理、運用指図実行等の対価</td> </tr> </table> <p>※運用管理費用(信託報酬)は、毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。 ※運用管理費用(信託報酬)は、無担保コール翌日物の金利水準により毎月見直されます。上記の表に記載された率は上限です。</p>	委託会社	0.25%	委託した資金の運用の対価	販売会社	0.25%	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価	受託会社	0.05%	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
委託会社	0.25%	委託した資金の運用の対価									
販売会社	0.25%	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価									
受託会社	0.05%	運用財産の管理、運用指図実行等の対価									
	その他の費用・手数料	<p>諸費用(日々の純資産総額に対して上限年率0.1%(「マネープール」は上限年率0.05%))として、原則毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われる主な費用</p> <table border="1"> <tr> <td>監査費用</td> <td>監査法人等に支払うファンド監査に係る費用</td> </tr> <tr> <td>印刷費用等</td> <td>法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用(EDINET含む)等</td> </tr> </table> <p>実費として、原則発生の都度ファンドから支払われる主な費用</p> <table border="1"> <tr> <td>売買委託手数料</td> <td>有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料</td> </tr> <tr> <td>保管費用</td> <td>海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用</td> </tr> </table> <p>※信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。</p>	監査費用	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用	印刷費用等	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用(EDINET含む)等	売買委託手数料	有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料	保管費用	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用	
監査費用	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用										
印刷費用等	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用(EDINET含む)等										
売買委託手数料	有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料										
保管費用	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用										

投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することはできません。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



## お申込メモ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください

購入単位	1万口以上1口単位または1万円以上1円単位 ※詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額とします。(基準価額は1万口当たりで表示、当初元本=1口1円)
購入代金	購入申込受付日から起算して7営業日目までにお申込の販売会社にお支払いください。
換金単位	1口単位または1円単位
換金価額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額とします。(「マネープール」には信託財産留保額はありませぬ。)
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して7営業日目から販売会社でお支払いします。
申込締切時間	原則として販売会社の営業日の午後3時までには販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
スイッチング	「毎月分配型」の各ファンド間および「年2回決算型」の各ファンド間でスイッチングが可能です。なお、「マネープール」は「年2回決算型」各ファンドからのスイッチング以外による購入はできません。
購入・換金不可日	ロンドン証券取引所もしくはニューヨーク証券取引所の休業日またはロンドンの銀行もしくはニューヨークの銀行もしくはルクセンブルグの銀行の休業日と同日の場合および12月24日には購入・換金の申込の受付は行いません。(ただし、「マネープール」の換金申込を除きます。)
信託期間	各コース(「米ドルコース」、「ユーロコース」、「メキシコペソコース」、「マネープール」を除く) 2009年7月24日(設定日)~2028年10月25日 「米ドルコース」、「ユーロコース」、「メキシコペソコース」 2014年7月23日(設定日)~2028年10月25日 「マネープール」 2009年7月24日(設定日)~2018年10月25日 ※受益者に有利と認めるときは信託期間を延長することができます。
繰上償還	純資産総額が各ファンド30億円(「マネープール」は100万円)を下回ることとなったとき、信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときには、各ファンドが繰上償還となることがあります。
決算日	[毎月分配型]原則として毎月25日(休業日の場合は翌営業日) [年2回決算型]原則として、4月および10月の25日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	[毎月分配型]毎月(年12回)の決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。(再投資可能) [年2回決算型]年2回の決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。(再投資可能)
課税関係	課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 益金不算入制度および配当控除の適用はありません。

## ファンドの関係法人

委託会社	UBSアセット・マネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第412号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
各ファンドが 投資対象とする 投資信託の 運用会社	「各ファンド(マネープールを除く)」 UBSアセット・マネジメント(UK)リミテッド 「マネープール」 UBSアセット・マネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
販売会社	野村証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

本資料は、UBSアセット・マネジメント株式会社によって作成された販売用資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。投資信託は値動きのある有価証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本は保証されているものではありません。また、投資信託は預貯金とは異なり、元本は保証されておらず、投資した資産の減少を含むリスクがあることをご理解の上、購入のお申込をお願いいたします。投資信託は預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関を通じてご購入頂いた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。本資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成されておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。本資料に記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。購入のお申込にあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)等をお渡ししますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断くださいますようお願いいたします。

©UBS 2017. キーシンボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。